

# 環境経営レポート

活動期間 2021年4月～2022年3月

作成日 2022年6月1日



®環境省

エコアクション21

認証番号 0012052

株式会社亀田清掃

## 目 次

<b>1. 組織の概要</b> .....	1
対象範囲 .....	1
組織図 .....	2
環境経営実行組織の役割、責任及び権限 .....	2
<b>2. 環境経営方針</b> .....	4
<b>3. 事業の概要</b> .....	5
許可内容 .....	5
処理能力 .....	6
処理工程図 .....	8
処理実績 .....	10
<b>4. 環境経営目標</b> .....	12
<b>5. 環境経営目標／実施計画一覧表、取組の評価</b> .....	13
<b>6. 取組の結果及び次年度取組</b> .....	14
<b>7. 環境関連法規等の順守状況の確認及び</b> <b>評価の結果並びに違反、訴訟等の有無</b> .....	14
<b>8. マネジメントレビューの結果</b> .....	15

## 1. 組織の概要

事業所名 株式会社亀田清掃  
 代表者 代表取締役 池田 善徳  
 所在地 函館市赤川町90番地の4  
 設立年月日 昭和46年9月3日  
 資本金 1,008万円  
 従業員数 105名  
 売上高 101,574万円（うち対象範囲売上高75,569万円）  
 （2022年3月期）

建物敷地 本社 建物 495㎡ 敷地 8,418㎡  
 函館汚泥脱水処理センター 建物 759㎡ 敷地 46,385㎡  
 亀田清掃リサイクルセンター 建物 663㎡ 敷地 9,780㎡

## 【対象範囲】

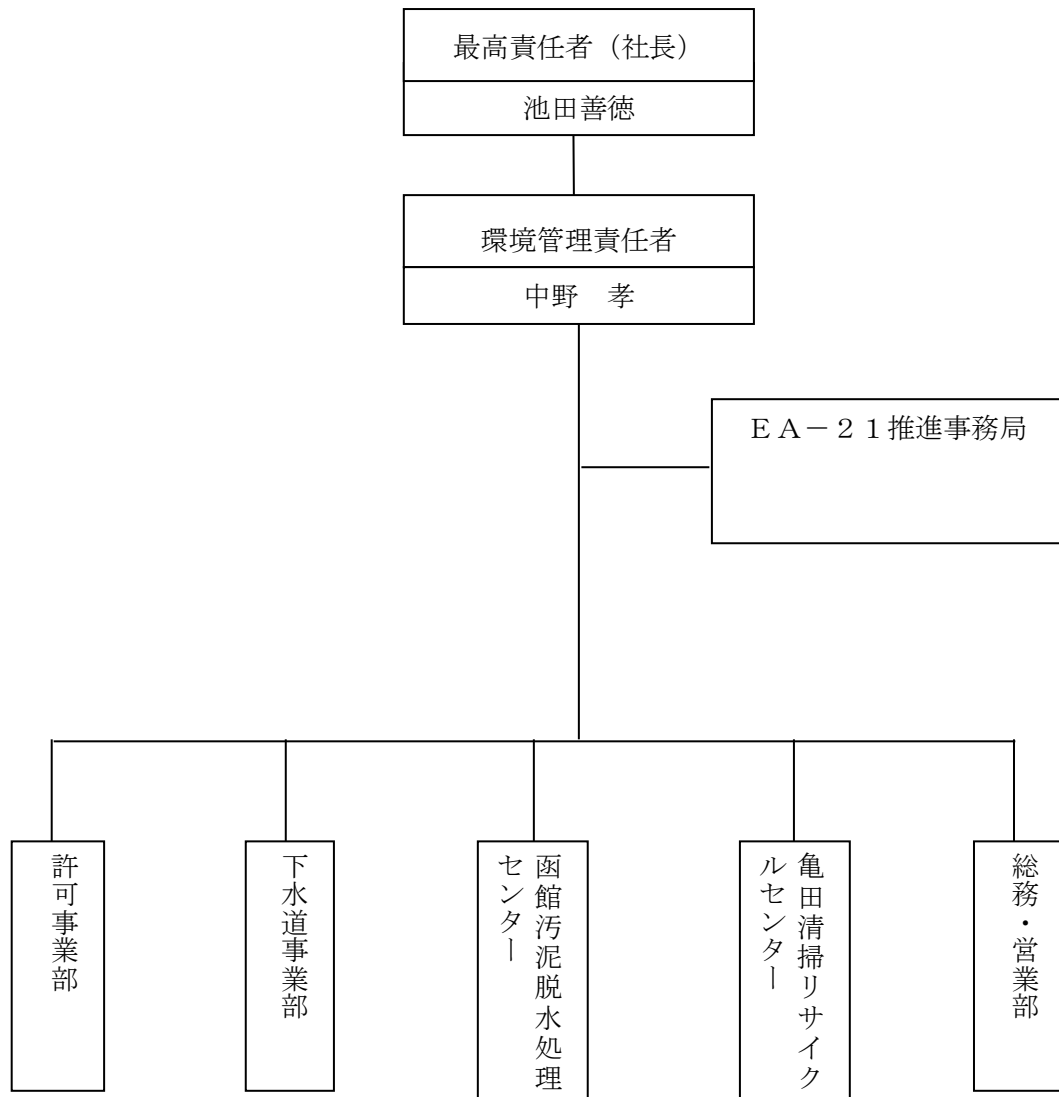
事業所	住 所	従業員数
本社	函館市赤川町90番地の4	44名
函館汚泥脱水処理センター	函館市東山町121番地の5	2名
亀田清掃リサイクルセンター	函館市東山町121番地20	13名

## 【対象活動の内容】

詳細内容
一般廃棄物・産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬業 産業廃棄物中間処理業 浄化槽清掃並びに維持管理業務 下水道管洗浄作業 管渠止水更生工事業務

環境管理責任者 中野 孝（取締役施設管理部長）  
 担当者 古館 ひで子  
 連絡先 Tel (0138)46-3263 Fax (0138)47-5689

組織図



※ 各部署に環境推進委員(部署長)を置く

環境経営実行組織の役割、責任及び権限

(1) 社長（代表者）の役割

- ① 環境経営方針を決定する。
- ② 環境管理責任者を任命し、他の責任にかかわりなく環境マネジメントシステムの確立、実施と維持並びに見直し、改善の基礎として環境マネジメントシステムの実績報告にかかわる役割、責任及び権限を与える。
- ③ 環境マネジメントシステムの管理実行にあたり、必要な経営資源(人的資源、専門的な技能、インフラストラクチャー、技術並びに資金)を確保する。
- ④ 少なくとも1年に1回定期的に環境マネジメントシステムのレビューを行う。

(2) 環境管理責任者の役割

EA-21の要求事項に適合したシステムを構築し、実施し、かつ維持されることを確実にすること

- ① 環境マネジメントマニュアル及び関連文書等の作成及び見直しをする。
  - ② マネジメントレビューのための情報として、その構築・実施に関する情報を社長に提供する
  - ③ 利害関係者からの苦情、要望等の処理と連絡
  - ④ 法的及びその他の要求事項の集約及び登録を行い、承認する。
  - ⑤ 当社全体の環境経営目標の素案(変更等の素案を含む)・及び実施計画を集約し、社長の承認を得る。
  - ⑥ 部署別の環境経営目標、実施計画(部署環境管理改善計画書/報告書)を承認する。
  - ⑦ コミュニケーションによる情報を集約保存し、必要に応じて各部署責任者及び社長と協議する
  - ⑧ 環境関連事故及び緊急事態発生時の報告を受けたときは対応の総指揮をとり、その概要を社長に報告する。
  - ⑨ 監視測定結果の集計表を作成し、社長に報告する。
  - ⑩ 環境経営目標並びに法規制及びその他の要求事項との不適合の是正処置の概要について、社長に報告する。
  - ⑪ 不適合是正処置の結果、必要に応じて環境マネジメントシステムの見直しを実施し、社長に提案する。
  - ⑫ 環境経営レポートの作成と公表
- (3) 各部署の責任者(環境推進委員)の役割等は以下のとおりとする。  
部署責任者は、適任者を環境管理責任者が推薦し、社長が任命する。
- ① 自己の管理範囲内における実施責任者として、全員参加による環境経営システムの実施及び管理に責務を負い、部門内の必要な人材育成、パフォーマンスの向上を図る
  - ② 全体の環境経営目標を達成するために部署の「部署環境管理改善計画書/報告書」を作成し、環境管理責任者の承認を得る。
  - ③ 「部署環境管理改善計画書/報告書」にて実施結果の内容、評価を確認し、環境管理責任者に3か月ごとに記録を提出する。
  - ④ 社外のコミュニケーションの受理及び回答処理を行い、コミュニケーション情報記録を環境管理責任者に提出する。
  - ⑤ 自部署に係わる委託業務について、必要に応じて関連委託業者に運用手順を伝達する。
  - ⑥ 環境関連事故及び緊急事態発生時には、対応責任者として処置を行い「緊急事態発生報告書」を環境管理責任者に提出する。
  - ⑦ 部署において実施可能な場合は緊急事態対応計画の定期訓練を行い、実績を記録し、環境管理責任者に記録書を提出する。
  - ⑧ 監視・測定手順書を作成する。
  - ⑨ 監視及び測定の結果を記録し、定期的に環境管理責任者に記録書を提出する。
  - ⑩ 不適合が生じた又は予測された場合には、原因を調査特定し是正及び予防処置を行い記録し、所属の長等の承認を受け環境管理責任者に提出する。
- (5) EA-21 推進事務局  
EA-21 推進事務局を置く。その役割は、以下のとおりとする。
- ① 環境管理責任者に関わる事務及び業務補佐を行う。
  - ② その他環境マネジメントシステムの管理運営に関わる事務を行う。
  - ③ 法的及びその他の要求事項の遵守評価を行う。
  - ④ 常に環境関連法令の制改廃の把握に努め、「環境関連法規制及びその他の要求事項登録表兼順守状況確認書」の登録、変更が必要なときは、最新情報を環境管理責任者へ「環境関連法規制及びその他の要求事項登録表兼順守状況確認書」を提出する。
  - ⑤ 環境教育計画を作成し実施する。

## 2. 環境経営方針

# 環境経営方針

## 基本理念

株式会社亀田清掃は、都市生活の空間の中で人々に限りない潤いをもたらせる「美しい水や緑とのふれあい」をいつまでも守っていくための支えになることを念頭に、廃棄物処理に携わる企業として地域社会はもちろん地球全体の環境負荷低減が事業活動の使命と自覚し「環境保全と持続可能な社会の実現に貢献する」ことを基本理念とします。

## 環境経営方針

株式会社亀田清掃は、一般廃棄物・産業廃棄物収集運搬業務並びに産業廃棄物中間処理業務が主体であることを踏まえて、以下の原則を履行し環境管理活動を行います。

1. 本社事務所及び亀田清掃リサイクルセンター・函館汚泥脱水処理センターの事業活動が環境に与える影響を考慮し、環境汚染の予防に努めると共に環境経営マネジメントシステムの継続的改善を図ります。
2. 環境経営目標を設定し、社員ひとりひとりが自覚を持って活動に取り組みます。また、環境経営目標は経営における課題とチャンスの変化を捉え定期的に見直しを行います。
3. 当社の事業活動に関わる法規制並びに当社が同意するその他の要求事項を順守すると共に、自らの責任において社会の期待を考慮した行動に努めます。
4. 当社の事業活動において省資源・省エネルギーを推進し、自然エネルギーの有効活用を行います。また、産業廃棄物の中間処理業務においては選別作業の徹底を図り、リサイクル率の向上に努めます。
5. 全社員が環境経営方針を理解し行動ができるように周知徹底を図り、環境管理活動に努めます。

この環境経営方針は、社外一般の求めに応じて公開します。

2021年 4月 1日  
株式会社 亀田清掃  
代表取締役 池田 善徳

## 3. 事業の概要

許可内容

許可内容	許可者	許可年月日	許可の有効年月日	許可番号	事業の範囲
産業廃棄物収集運搬業 (優良)	北海道	平成30年3月12日	令和7年3月11日	00100007685	燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、動物系固形不要物、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、鋳さい、がれき類、動物のふん尿、動物の死体、ばいじん、産業廃棄物を処分するために処理したもの。以上、石綿含有産業廃棄物であるもの、水銀使用製品産業廃棄物であるものを含み、ばいじん、燃え殻、汚泥、廃酸、廃アルカリ、鋳さいについては、水銀含有ばいじん等であるものを含む。積替保管なし。
特別管理産業廃棄物収集運搬業(優良)	北海道	平成27年9月10日	令和4年9月9日	00150007685	廃油(揮発油類、灯油類、軽油類)、廃酸(pH2.0以下のもの)、廃アルカリ(pH12.5以上のもの)、特定有害産業廃棄物(廃石綿他)
産業廃棄物処分業	函館市	平成31年2月10日	令和6年2月9日	05223007685	脱水(汚泥(無機性のものに限る。)) 固化(汚泥(無機性のものに限る。)) 破碎(廃プラスチック類、紙くず、木くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず(廃石膏ボードに限る。)) 選別(廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類) 圧縮(廃プラスチック類)
一般廃棄物処理業	函館市	令和4年4月1日	令和6年3月31日	1	
一般廃棄物処理業	北斗市	令和4年3月16日	令和6年3月31日	4-4	
一般廃棄物処理業	七飯町	令和4年3月28日	令和6年3月31日	12	
浄化槽清掃業	函館市	平成20年11月5日	無	2	
浄化槽清掃業	北斗市	令和4年3月15日	令和5年3月31日	4-2	
浄化槽清掃業	七飯町	令和4年3月28日	令和5年3月31日	3	
浄化槽保守点検業	北海道	令和3年10月26日	令和6年12月8日	60-39	
浄化槽保守点検業	函館市	令和3年10月6日	令和6年10月11日	2	
建設業	北海道	令和2年1月17日	令和7年4月13日	渡02669	
函館市企業局指定排水設備工事業者指定書	函館市企業局	平成31年4月1日	令和6年3月31日	平成31年度 217	

## 処理能力

## 1) 収集運搬車両

事業所	種 類		台数
赤川本社	ロードパッカー車	4 t	1台
	ロードパッカー車	6 t	6台
	プレスパッカー車	4 t	3台
	プレスパッカー車	6 t	5台
	ダンプ車(クレーン付)	4 t	1台
	ダンプ車(クレーン付)	5 t	2台
	ダンプ車(クレーン付)	6 t	2台
	ダンプ車	4 t	2台
	キャブオーバー	4 t	1台
	キャブオーバー(クレーン付)	5 t	1台
	ダンプ車(脱着装置付コンテナ専用車)	4 t	1台
	ダンプ車(脱着装置付コンテナ専用車)	10 t	1台
	ダンプ車(脱着装置付コンテナ専用車クレーン付)	7 t	1台
	バキューム車	4 t	1台
	バキューム車	8 t	2台
	汚泥強力吸引車	4 t	1台
	汚泥強力吸引車	6 t	1台
	汚泥強力吸引車	7 t	1台
	汚泥強力吸引車	8 t	1台
		バン(乗用)	
函館汚泥脱水処理センター	ダンプ車	11 t	1台
	バックホー	0.7m <sup>3</sup>	1台
	ホイールローダー	1.9m <sup>3</sup>	1台
亀田清掃リサイクルセンター	ダンプ車	11 t	2台
	ミニホイールローダー	0.6m <sup>3</sup>	1台
	ミニバックホー	0.2m <sup>3</sup>	2台
	フォークリフト		1台



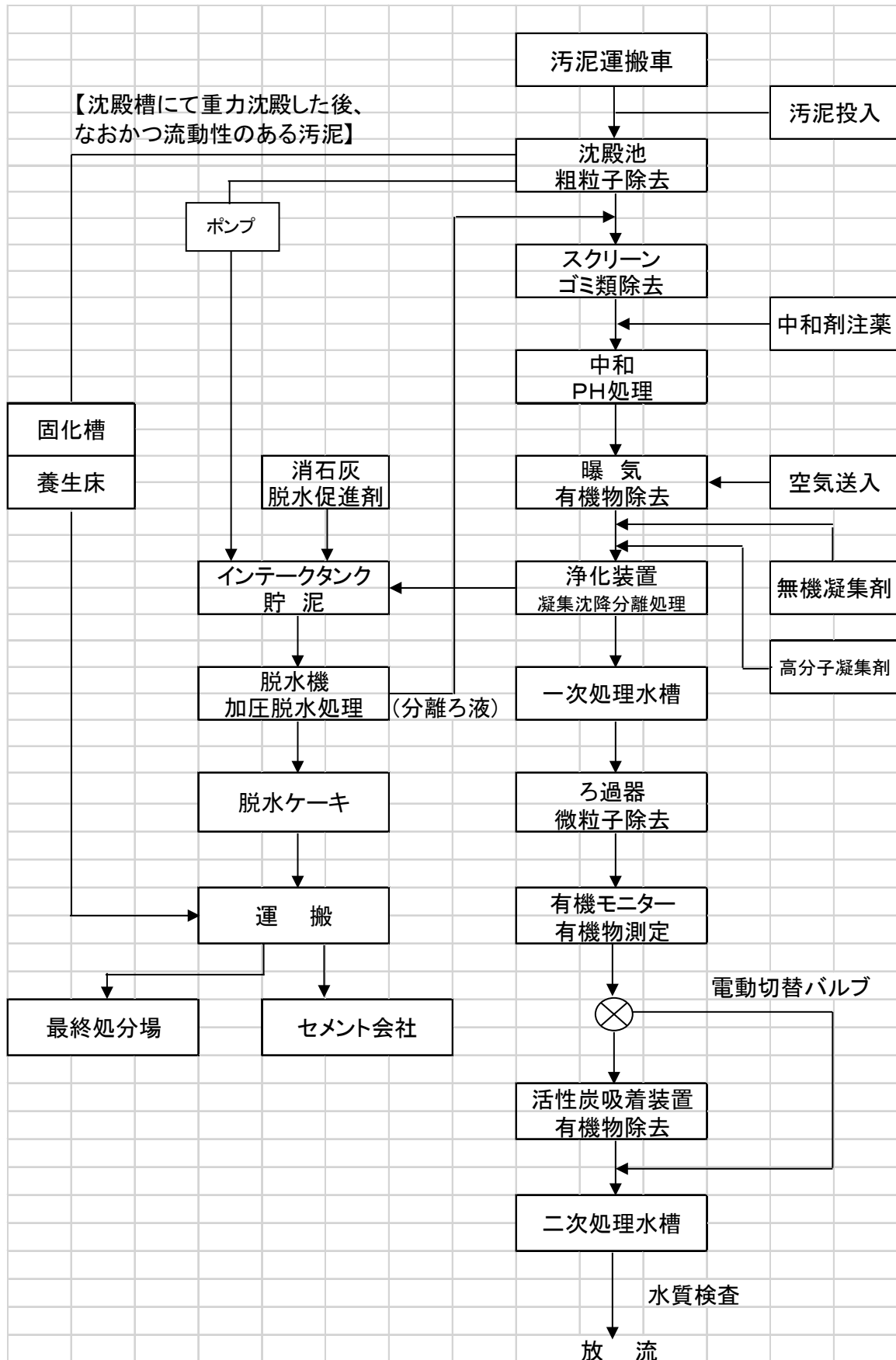
2) 中間処理施設

	施設の種類	処分方法	設置場所	処理能力
施設1	汚泥(無機性のものに限る)の脱水施設	脱水	函館市東山町 121 番 5・40 の内	46 m <sup>3</sup> /日(8 時間) 5.75 m <sup>3</sup> /時間
施設2	汚泥(無機性のものに限る)の固化施設	固化	函館市東山町 121 番 5・40 の内	41.28 m <sup>3</sup> /日
施設3	廃プラスチック類、紙くず、木くずの破碎施設(廃プラスチック類、木くず)	破碎	函館市東山町 121 番 20 の内	8.2t/日(8 時間) 1.025t/時間
	廃プラスチック類、紙くず、木くずの破碎施設(紙くず)	破碎	函館市東山町 121 番 20 の内	6.1t/日(8 時間) 0.762t/時間
施設4	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず(廃石膏ボードに限る)の破碎施設	破碎	函館市東山町 121 番 20 の内	4.8t/日(8 時間) 0.6t/時間
施設5	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類の選別施設	選別	函館市東山町 121 番 20 の内	161 m <sup>3</sup> /日(7 時間) 23 m <sup>3</sup> /時間
施設6	廃プラスチック類の圧縮施設	圧縮	函館市東山町 121 番 20 の内	4.0t/日(8 時間) 0.5t/時間

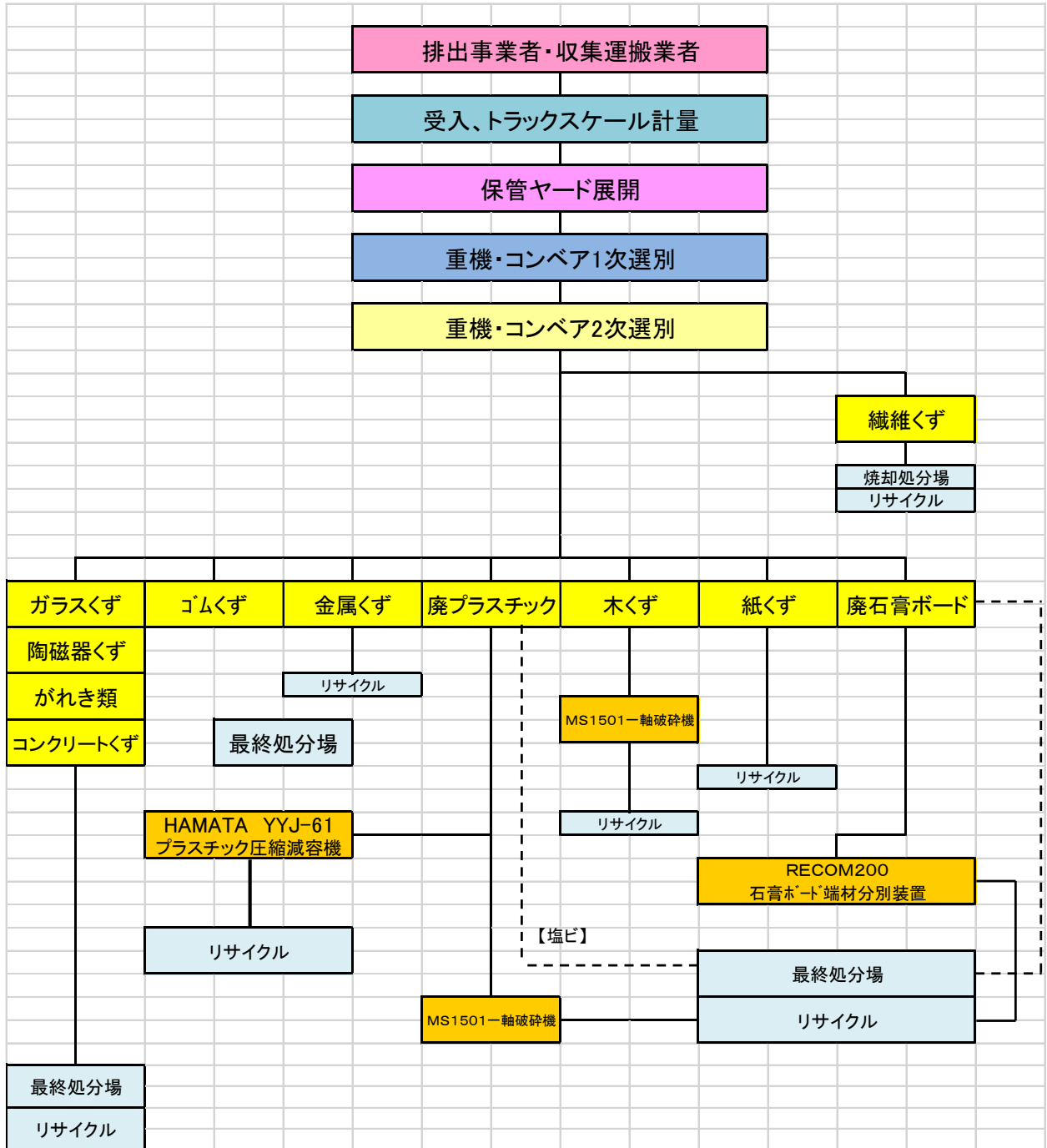
	品名	保管場所面積	最大貯蔵数量
混合廃棄物保管場所	木くず 紙くず 廃プラスチック類 繊維くず 金属くず がれき類等	748.25 m <sup>2</sup>	935.32 m <sup>3</sup>
工場内 (処理後の保管含む)	木くず(破碎) 廃プラスチック類(圧縮) 石膏ボード(破碎)	574 m <sup>2</sup>	161.58 m <sup>3</sup> 9 m <sup>3</sup> 10 m <sup>3</sup>
木くず保管場所	木くず	679.74 m <sup>2</sup>	886.88 m <sup>3</sup>
分別・処理後の保管場所	廃プラスチック類	233.17 m <sup>2</sup>	45.21 m <sup>3</sup>
	紙くず	70 m <sup>2</sup>	87.5 m <sup>3</sup>
	金属くず等	139.99 m <sup>2</sup>	105 m <sup>3</sup>

処理工程図

1) 函館汚泥脱水処理センター



2) 亀田清掃リサイクルセンター



## 処理実績

## 1) 環境への負荷の状況

環境への負荷		単位	2018.4 月～ 19.3月	2019.4 月～ 20.3月	2020.4 月～ 21.3月	2021.4 月～ 22.3月
二酸化炭素排出量		kg-CO <sub>2</sub>	774976	752037	762130	722435
受託、または受領 した廃棄物、再生 資源等の処理量等	産業廃棄物収集運搬量	t	15635	11720	11902	11618
	産業廃棄物中間処理量	t	13193	10495	11360	8998
	うち再資源化等量	t	0	0	0	0
	産業廃棄物最終処分量	t				
	産業廃棄物中間処理後の処分量	t	11781	8393	9133	7244
	うち最終処分量等	t	4218	3585	3387	3378
	うち中間処理量等	t	7563	4808	5746	3866
	一般廃棄物収集運搬量 事業系	t			8846	8714
	家庭系	t			89	76
	し尿・汚泥	ℓ			3156072	2794230
一般廃棄物総排出量	kg			1178	1006	
産業廃棄物総排出 量		kg			9140000	6970820
	中間処理量	kg			6100	7300
	うち再生資源化量	kg			5746160	3866530
	最終処分（埋立）量	kg			3387740	3096990
廃棄物排出量及び 最終処分量	一般廃棄物循環資源	t	0.62	0.57	0.56	0.58
	中間処理	t	0.62	0.65	0.61	0.51
	産業廃棄物再資源化等量	t	7563	4808	5746	3866
	中間処分量	t	11.3	9.3	6.1	7.3
	最終処分量	t	4010	3041	3387	3096
総排水量	公共用水域	m <sup>3</sup>	1541	1315	1325	1378
	下水道	m <sup>3</sup>	1649	1400	1510	1416
水使用量	上水	m <sup>3</sup>	3191	2716	2835	2794
化学物質使用量	セメント固化剤（ジオセツト）	kg	113000	131000	176000	60000
	粉末ポリ塩化アルミニウム	kg	640	760	560	560
	消石灰	kg	0	0	0	0
エネルギー使用量	購入電力	kwh	101922	105979	99410	104031
	購入電力 CO2 排出量	kg-CO <sub>2</sub>	69612	72383	67897	61690
	化石燃料 CO2 排出量	kg-CO <sub>2</sub>	726458	679654	688233	660745
	新エネルギー	kwh	3297	4076	3220	3436
物質使用量	資源使用量	t	113.93	132.21	176.92	60.91

※二酸化炭素排出係数(単位:kg-CO<sub>2</sub>/kwh) 2019年度 0.593

2) 受託した産業廃棄物の処理量

廃棄物等種類		処分方法等	処理量(t)	処理量(t)	処理量(t)	処理量(t)	
			2018年4月 ~19年3月	2019年4月 ~20年3月	2020年4月 ~21年3月	2021年4月 ~22年3月	
収集運搬	廃石綿等(特管)		3.11	0.28	3.3	4.65	
	廃油(特管)		2.49	2.18	3.81	7.29	
	強アルカリ(特管)				0.01		
	汚泥(特管)					0.08	
	混合廃棄物(石綿含有)		2.23	7.4	15.27		
	ガラス・陶磁器くず(石綿含有)		6.57	7.6			
	プラ・金属の混合(石綿含有)					14.59	
	ガラス・金属の混合(石綿含有)					1.03	
	がれき類(石綿含有)				1.62	0.29	
	金属くず(石綿含有)				0.05	0.82	
	ガラス・陶磁器くず(水銀使用製品)			1.84	1.28	2.54	
	燃え殻		17.42	27.44	2.08	0.46	
	汚泥		9771.6	7423.38	7346.8	7332.45	
	廃油		8.84	8.21	10.18	14.22	
	廃酸		32.91	65.88	107.35	90.09	
	廃アルカリ		5.49		1.21	1.10	
	廃プラスチック類		1091.98	565.36	1034.54	1325.37	
	紙くず		14.95	33.23	9.49	5.14	
	木くず		242.03	182.16	133.22	182.11	
	繊維くず		0.79				
	動植物性残渣		3.27	11.58	18.85	6.71	
	金属くず		371.37	196.58	112.68	70.91	
	ガラス・陶磁器くず		627.79	141.38	118.4	98.01	
	鋳さい				1.33		
がれき類		546.79	634.05	426.63	205.50		
混合廃棄物		2886.2	2411.56	2554.06	2254.99		
収集運搬量合計			15635.83	11720.11	11902.16	11618.35	
中間処理	汚泥	脱水・固化	6811.06	4005.13	5170.85	3190.64	
	廃プラスチック類	選別・圧縮・破砕	1475.06	1483.87	1509.92	1366.44	
	紙くず	選別	279.84	297.45	255.86	264.35	
	木くず	選別・破砕	1601.37	1450.92	1521.73	1679.82	
	金属くず	選別	814.66	592.67	543.08	511.44	
	ガラス・陶磁器くず	選別	963.75	866.25	796.12	860.32	
	がれき類	選別	1030.57	1000.76	820.01	482.05	
	廃石膏ボード	選別・破砕	1247.91	798.94	743.06	643.11	
	うち 再資源化	再資源化等小計					
中間処理合計			14224.22	10495.99	11360.63	8998.17	
中間処理 後の産業 廃棄物	最終処分	汚泥	管理型埋立(委託)	17.8	33		
		廃プラスチック類	安定型埋立(委託)	1205.84	1011.6	1255.76	1374.54
		廃石膏ボード	管理型埋立(委託)	1004.5	798.94	603.2	696.70
		ガラス・陶磁器くず	安定型埋立(委託)	958.99	866.25	796.12	860.32
		がれき類	安定型埋立(委託)	1030.57	875.76	732.69	446.09
		最終処分小計		4217.7	3585.55	3387.77	3377.65
	再資源化 等	汚泥	焼成(委託)	4400.3	1869.7	3000.46	1267.19
		廃プラスチック類	再生(委託)	278.06	472.27	253.86	245.60
		紙くず	再生・焼却(委託)	282.05	297.45	255.86	259.92
		木くず	燃料(委託)	1608.54	1450.92	1580.05	1534.53
		金属くず	再生(委託)	782.98	592.67	568.61	524.23
		ガラス・陶磁器くず	再生(委託)	4.75			
		がれき類	再生(委託)	207.14	125	87.32	35.06
再資源化等小計		7563.82	4808.01	5746.16	3866.53		
中間処理後処分量合計			11781.52	8393.56	9133.93	7244.18	

4. 環境経営目標

環境経営目的	部署名 (関連部署)	環境経営目標		
		2021 年度	2022 年度	2023 年度
軽油の使用による二酸化炭素排出量の削減 (収集運搬車・バックホー・タイヤショベルの運転等)	許可事業部	2019年度の軽油使用実績 151161ℓの0.5% 756ℓ削減 150405ℓ	2019年度の軽油使用実績 151161ℓの1% 1512ℓ削減 149649ℓ	2019年度の軽油使用実績 151161ℓの1.5% 2268ℓ削減 148893ℓ
	下水道事業部	2019年度の軽油使用実績 29625ℓの0.5% 148ℓ削減 29477ℓ	2019年度の軽油使用実績 29625ℓの1% 296ℓ削減 29329ℓ	2019年度の軽油使用実績 29625ℓの1.5% 444ℓ削減 29180ℓ
	汚泥処理センター	2019年度の軽油使用実績 4254ℓの0.5% 210ℓ削減 4233ℓ	2019年度の軽油使用実績 4254ℓの1% 42ℓ削減 4212ℓ	2019年度の軽油使用実績 4254ℓの1.5% 630ℓ削減 4191ℓ
	リサイクルセンター	2019年度の軽油使用実績 42391ℓの0.5% 212ℓ削減 42179ℓ	2019年度の軽油使用実績 42391ℓの1% 424ℓ削減 41967ℓ	2019年度の軽油使用実績 42391ℓの1.5% 636ℓ削減 41755ℓ
灯油の使用による二酸化炭素排出量の削減 (暖房機・温水ボイラー・洗車ボイラー等)	許可事業部 下水道事業部 総務・営業部	2019年度の灯油使用実績 7960ℓの0.5% 400ℓ削減 7920ℓ	2019年度の灯油使用実績 7930ℓの1% 800ℓ削減 7880ℓ	2019年度の灯油使用実績 7960ℓの1.5% 1190ℓ削減 7841ℓ
	汚泥処理センター	2019年度の灯油使用実績 2298ℓの0.5% 110ℓ削減 2287ℓ	2019年度の灯油使用実績 2298ℓの1% 230ℓ削減 2275ℓ	2019年度の灯油使用実績 2298ℓの1.5% 340ℓ削減 2264ℓ
	リサイクルセンター	2019年度の灯油使用実績 891ℓの0.5% 40ℓ削減 887ℓ	2019年度の灯油使用実績 891ℓの1% 90ℓ削減 882ℓ	2019年度の灯油使用実績 891ℓの1.5% 130ℓ削減 878ℓ
電気の使用による二酸化炭素排出量の削減 (PC・コピー機・エアコン・照明等)	許可事業部 下水道事業部 総務・営業部	2020年度の使用実績 14219kwh の1% 142kwh削減 14077kwh	2020年度の使用実績 14219kwh の2% 284kwh削減 13935kwh	2020年度の使用実績 14219kwh の3% 427kwh削減 13792kwh
水道水使用量の削減	許可事業部 下水道事業部 総務・営業部	2019年度の使用実績 1212 m <sup>3</sup> を上回らない(25 mm)	2019年度の使用実績 1212 m <sup>3</sup> を上回らない(25 mm)	2019年度の使用実績 1212 m <sup>3</sup> を上回らない(25 mm)
	下水道事業部	2019年度の使用実績 1446 m <sup>3</sup> を上回らない(50 mm)	2019年度の使用実績 1446 m <sup>3</sup> を上回らない(50 mm)	2019年度の使用実績 1446 m <sup>3</sup> を上回らない(50 mm)
	リサイクルセンター	2019年度の使用実績 152 m <sup>3</sup> を上回らない	2019年度の使用実績 152 m <sup>3</sup> を上回らない	2019年度の使用実績 152 m <sup>3</sup> を上回らない
受入混合廃棄物のリサイクル率の向上による最終処分廃棄物の削減	リサイクルセンター	リサイクル率平均実績 44.4%の1% 0.4%向上 44.8%	リサイクル率平均実績 44.4%の1.5% 0.7%向上 45.1%	リサイクル率平均実績 44.4%の2% 0.9%向上 45.3%
固化剤添加率低減による化学物質使用量の削減	汚泥処理センター	固化剤添加率 0.11t/m <sup>3</sup> を上回らない	固化剤添加率 0.11t/m <sup>3</sup> を上回らない	固化剤添加率 0.11t/m <sup>3</sup> を上回らない
紙使用量の削減	総務・営業部	2020年度の使用実績 69094 枚の0.3% 208枚削減 69093 枚	2020年度の使用実績 69094 枚の0.5% 346枚削減 68954 枚	2020年度の使用実績 69094 枚の0.8% 554枚削減 68747 枚
一般廃棄物の適正処理によるゴミ排出量の削減	許可事業部 下水道事業部	2020年度の可燃物排出量 246.5 kgの0.5% 1.2 kg削減 245.3 kg	2020年度の可燃物排出量 246.5 kgの1% 2.5 kg削減 244.0 kg	2020年度の可燃物排出量 246.5 kgの1.5% 3.7 kg削減 242.8 kg
	総務・営業部	可燃ゴミのうち紙くずの排出量が50%を下回らない	可燃ゴミのうち紙くずの排出量が50%を下回らない	可燃ゴミのうち紙くずの排出量が50%を下回らない
	リサイクルセンター	2020年度の可燃物排出量 134.1 kgの0.5% 0.7 kg削減 133.4 kg	2020年度の可燃物排出量 134.1 kgの1% 3kg削減 132.8kg	2020年度の可燃物排出量 134.1 kgの1.5% 2.0kg削減 132.1 kg

## 5. 環境経営目標／実施計画一覧表、取組の評価

環境経営目的	環境目標	実施項目	評価 ◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった
軽油の使用による二酸化炭素排出量の削減	2017～2019年度の平均燃費実績を下回らない	アイドリングストップ	◎
		経済速度での走行	◎
		無駄な荷物は積まない	◎
		無駄な空ぶかしをやめる	◎
		急発進・急加速・急ブレーキをやめる	◎
		暖気運転の短縮	○
		エアコンの使用を控えめにする	○
		車両整備	△
		早めのギヤチェンジ	○
灯油の使用による二酸化炭素排出量の削減	2017～2019年度の灯油平均使用実績を上回らない	ボイラーの温度管理等の徹底	○
		お湯の止め忘れ防止	○
電気の使用による二酸化炭素排出量の削減	2019 年度の使用実績を上回らない	照明、空調の消し忘れ防止	◎
		OA 機器等の電源管理の徹底	◎
		冷房の温度管理 (28℃)	◎
水道水使用量の削減	2017～2019 年度の平均使用実績 2%削減 リサイクル:250 m <sup>3</sup> を上回らない	洗濯時の水使用量管理	◎
		洗車、レンタル品清掃時の水使用量管理	◎
受入混合廃棄物のリサイクル率の向上による埋立処分廃棄物の削減	2013～2015 年度のリサイクル率平均実績の 1.5%向上	混合廃棄物の分別作業の徹底	○
		選別作業責任者による選別状況の確認	○
固化剤添加率低減による化学物質使用量の削減	2016～2018 年度の平均固化剤使用実績を上回らない	沈殿槽での沈殿時間の延伸による水切り作業	◎
		固化剤の添加量を抑え養生時間の調査	◎
		脱水可能汚泥の機械脱水による脱水の徹底	◎
		固化剤の添加量抑制のための小分け使用	◎
紙使用量の削減	基準値設定のため使用実績の把握	事務所内主機器 2 台の月毎の使用量を記録	◎
		裏紙の使用促進	◎
		ペーパーレス推進	◎
一般廃棄物の適正処理によるゴミ排出量の削減	2017～2019 年度の平均可燃物排出量を上回らない 総務: 可燃ゴミのうち紙くずの排出量が 50%を下回らない	分別の徹底	◎
		喫食ゴミの適正排出	◎
		紙くずのリサイクル排出	◎
		廃棄物管理票への記入	◎



## 6. 取組の結果及び次年度取組

取組の結果	次年度取組
1. 軽油の使用による二酸化炭素排出量の削減 対象組織全体での達成率は107.9%でした。一部未達成の組織は原因の究明と改善へ向けての考察を支持しましたが、作業内容により使用量の変動が大きかったようでした。	経営目標は、本年の0.5%削減から次年度は1%削減とします。今年度未達成の組織は、是正処置を施し、全組織が目標達成されよう継続して取り組みます。
2. 灯油の使用による二酸化炭素排出量の削減 対象組織全体での達成率は104.6%でした。昨年は本社建屋にて数値目標が未達成に終わりましたが、是正処置の効果及び多少暖冬であったため今年度は良い結果でした。	経営目標は、0.5%削減から次年度は1%削減として取り組みます。削減量は0.5%増しますが、こまめな温度管理等徹底して取り組んでいきたいと思えます。
3. 電力の使用による二酸化炭素排出量の削減 経営目標の達成率は103%でした。昨年多かった残業による電力の使用が減ったことと、電源管理が徹底されたためと思われまます。	経営目標は、2%削減として取り組みます。太陽光発電や風力発電よりも、化石燃料による発電量が多いことを念頭に使用量を徹底管理し、削減に努めます。
4. 水道水使用量の削減 対象組織全体での達成率は107.3%でしたが、本社での使用量達成率は96.5%でした。12～2月温水を使用する作業が多かったため使用量が増加しました。	温水を使用する作業には、作業に応じた量の搭載を心掛け、無駄な水の使用のないよう目標達成へ向けて継続して取り組みます。
5. 受入混合廃棄物のリサイクル率向上による埋立処分量の削減 目標の達成率は101.8%でした。選別作業は埃まみれになり大変な作業ですが、従業員の目的意識向上により達成されました。	経営目標は、リサイクル率44.8%から45.1%の向上として取り組みます。さらなる分別の徹底を実施し、再資源化の向上を図ることにより、最終処分量の削減に努めます。
6. 固化剤添加率の低減による化学物質使用量の削減 目標達成率は、110%でした。受託した汚泥の性質をこまめに判断し、固化剤添加量の抑制に努め、達成することが出来ました。	沈澱槽での沈澱時間の延伸による水切り作業、また、養生時間の調整により、固化剤の添加率を抑え、コストの削減にも継続して取り組みます。
7. 紙使用量の削減 目標達成率は105.4%でした。書類作成による紙使用量の多い時期がありましたが、売上減に伴い紙使用量が減った月もあり、結果、目標が達成されました。	裏紙の使用促進及びペーパーレスを推進し継続して取り組みます。
8. 一般廃棄物の適正処理によるゴミ排出量の削減 本社詰所及びリサイクルセンターは、可燃物排出量削減に取組んだ結果、目標達成率は3部署平均105.4%でした。総務・営業部では、可燃ゴミのうち紙くず排出量が50%を下回らないとして取組んだ結果、達成率は112.6%で大幅に目標を達成することが出来ました。	次年度も環境経営目標の達成に向けて、分別及びリサイクルの徹底を図り継続して取り組みます。

## 7. 環境関連法規等の順守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

「環境関連法規制及びその他の要求事項登録表兼順守状況確認書」により、先ず各部署長が順守状況を確認・評価を行い、次に事務局が各部署長立会のもと、見直しを行った結果、環境関連法規に違反のないことを確認しました。また、外部からの訴訟もないことを確認しました。



## 8. マネジメントレビューの結果

実施日	2022年 5月18日(水)	場所	1F 詰所
出席者	社長、環境管理責任者、事務局、部署長		
社長による見直し事項及び指示	見直し事項	指示事項等	
	① 環境経営方針	新たに経営における課題とチャンスは見当たらないため、現行での環境経営方針の運用を維持する。	
	②環境経営目標及び環境経営計画	本年度策定された環境経営目標及び環境経営計画を継続的に実施し、必要があれば運用中でも見直しをする。	
	③環境に関する実施体制	現状維持とする。	
社長による全体的な感想	各部署それぞれ努力の跡が見えるが、部署において目標値の設定を見直した方が良いと思う所がある。特に下水道事業部において、軽油の使用量は作業時間が多くなると増すので別な方法が良いのではないか。		
事務局及び部署長対応	軽油の使用実績の削減についての指示に対しては、事務局・部署で検討する。水道水の使用量削減については、部署で運用手順の再確認してもらう。		